

# ※ GIGAスクール構想 その後

陳情書「5Gのモデル校にならないでほしい」は不採択!

6月議会の文教委員会では市民から「5Gのモデル校にならないでほしい」という陳情書が出されました。私は「少しでも健康被害を及ぼす懸念がある以上現状のままICT教育を進めていってほしい」と陳情書に対しての賛成意見を述べました。文教委員の中で賛成3人反対3人と分かれたのですが、委員長判断で陳情書は不採択になりました。

**子ども達の健康を考えて出された保護者からの陳情書が不採択になるのは！ 私には到底理解できません。**

3月議会で、つつ木みゆきの補正予算での要望に対して、GIGAスクール構想として5Gを実証活用していくという教育委員会の答弁がありました。6月議会で再度質問したところ海老名市では5Gではなく現状の4GやWiFiを活用してICT教育を進めていくという方向性が示されました。

国が進めているGIGAスクール構想、ICTの最後の市場と言われている教育現場、これらのことを考えると海老名市もいつ5Gに方針転換するのかわかりません。これからもしっかりと注視していきます。

※114号に説明を掲載しました。ホームページにも載せてあります。



## 7月議会報告

6月議会に続き、7月1日に第4回海老名市議会臨時会が開催され、最終的に補正額15億775万3千円、補正後の予算額は620億4148万円になりました。

内訳は、新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、市民の生活を支援すると共に地域経済の活性化を図ることを目的としたプレミアム商品券の発行に14億6500万円。

「未来を生きる緊急総合パッケージ」として子どもたちへの支援策として家計が急変した家庭への支援策として、1175万6千円が打ち出されました。

**経済を回すことは大切です。しかし目に見えないところでもまだまだ生活に困窮している方がいます。そちらにダイレクトに支援していく事がもっと大事だと思います。**

## カジノ反対署名を国へ

海老名ネットは、内閣総理大臣と国土交通大臣に「カジノを含むIR推進の中止を求める署名」173筆を集めました。神奈川県全体で5,750筆を5月26日に国へ提出しました。

カジノを含むIR（統合型リゾート）は誘致自治体だけの問題ではありません。手を挙げている横浜市は海老名市からも近く、首都圏ばかりでなく日本社会全体にギャンブル依存症をもたらすこととなります。

コロナ禍のパンデミックにおいて、世界的に経済は減速しています。米国の大手カジノ事業者は日本進出を断念しました。国策を盾に、横浜市はカジノを含むIR事業予算の減額をしないことを6月議会で表明しました。国民の6割はカジノに反対しています。アフターコロナの社会にカジノは不要です。(西田)



### ●つつ木みゆきのお話タイム●

- ▶ 8月18日(火) 10:00～12:00 海老名ネット事務所
- ▶ 8月27日(木) 10:00～12:00 国分寺台文化センター
- ▶ 8月28日(金) 10:00～12:00 社家コミセン

このほかにも開催する場合は、地域にチラシでお知らせします。議会後には地域に出向いてコミセンや個人宅などで議会報告会を行っています。問い合わせ先：つつ木 046-234-3264

**編集後記** コロナ禍の中、子どもたちの未来にどうか暗い影がもたらされないようにと祈るばかりだ。巨大な軍事費をすべて教育費に回してほしい。自分の頭で考え、自分の意見をしっかりと発言できる子どもに。教員には学ぶ時間を。YM

\*生き活きまちづくりレポートはボランティアが配布しています。お手伝いしていただける方を募集しています。事務所までご連絡ください。



## 憲法の力



www.facebook.com/tasakimjy

社会情勢を鋭く報じる記者という目線での憲法のお話です。今を知り将来を考えたい発見がいっぱいです。アフターコロナの社会を参加者で考えていきましょう!

日時：8月6日(木) 9:30～11:30

場所：文化会館351多目的室

講師：神奈川新聞記者 田崎 基氏

- 参加費200円・保育無料 先着60名
- 参加と保育は事前申し込み：7/30(木)までに
- 申し込み先：西田046-234-1539 安原046-235-2439
- 新型コロナウイルス感染防止のため、マスク着用・検温測定済でご参加ください。

[共催] 神奈川ネットワーク運動海老名 さがみ生活クラブ生協海老名 commons

## コロナ禍から見たこと



地球は目に見えない無数の細菌やウイルスがバランスを保っている。それを壊すことが未知のウイルスを呼びだし、家畜や人間の密集に乗じて感染を拡大させるという。第一に自然破壊の手を緩めることが大事と、識者が説いています。

便利さの追求により、山を壊し、原発を稼働させ、農業をまき散らし、プラスチック製品を増産し、海を汚し、空気を汚し、人々の身体をこわし、子ども達の心をこわして、今ようやく間違っていたことに真に気付いたのではないだろうか。

コロナ禍で様変わりした生活から、私たちは一つ一つの行為を改めて見つめなおすヒントを得たように思う。暮らしを守る政治とは、食糧自給率を高めるには、自然と共に生きるとはなど、持続可能な社会をつくるためにどうすべきかを考えて、行動に移していかななくてはならないと思う。(廣田)